



PG-STEAMER®

Pioneer Geomatics Software Tools for Exploitation And Management of Earth Resources

version 4.2

PG-STEAMER4.2 リリースノート



ここでは、PG-STEAMER の最新バージョン 4.2 からの変更点や新機能をご紹介します。

目 次

1 章：システムの改良点

より便利に操作いただけるようにしました。

2 章：フォーマットと投影法の改良点

取り扱える衛星フォーマットと投影法を追加しました。

3 章：機能の改良点

皆様からのご要望をもとに、改良と新規追加しました。

詳しい操作方法は、別途チュートリアルをご参照ください。

1 章：システムの改良点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

改良点 1：一般画像フォーマットのまま高速表示・画像処理が実行可能に

今までは PG-STEAMER 専用の XDM フォーマットに変換することで、画像の表示方法をピラミッド階層構造化して、高速表示と高速処理を実現していましたが、バージョン 4.2 からは GeoTiff、BMP、JPEG、Jpeg2000、MrSID、ERDAS IMG フォーマットも、そのままダイレクトにピラミッド階層構造化して高速表示と処理が実行いただけます。これにより XDM フォーマットへの変換作業を省略できます。

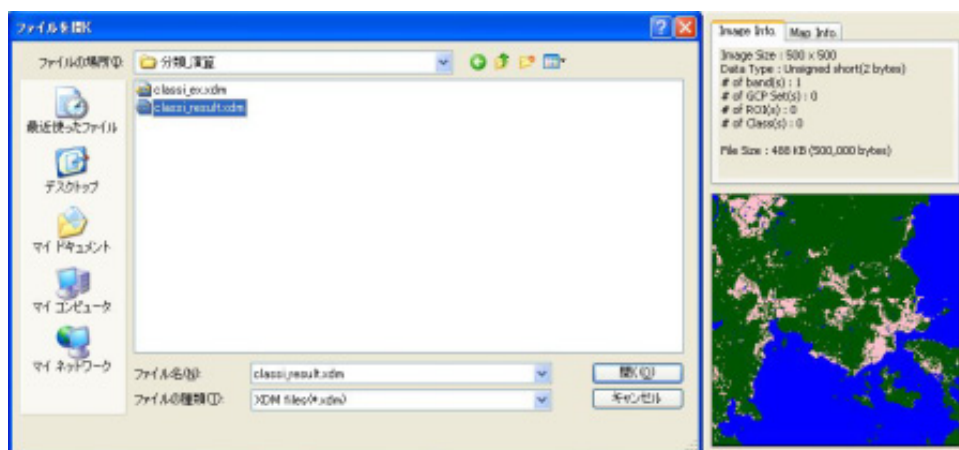
ただし、これら一般画像フォーマットをピラミッド階層構造化して高速表示・処理するには、初めの利用時に自動生成される情報ファイル(XLD)を、以後同じフォルダ内に保存しておく必要があります。

改良点 2：ベクタデータ表示時の投影情報指定が省略

今まで Image Composer 等でベクタデータを表示する際には、毎回投影情報を指定しなければなりませんでした。バージョン 4.2 からはこれが省略され、自動的に以前指定した投影情報を反映して表示します。

改良点3： ファイルを開く際のプレビューのレイアウト変更

XDM ファイルを選択して開く際に右側に現れるファイルのプレビューが、「Image Info」と「Map Info」の2つのタブ選択で詳細に確認できるようになりました。



2章：フォーマットと投影法の改良点

入力可能になった衛星画像フォーマット：

- GeoEye-1 GeoTiff
- WorldView-2 GeoTiff
- RapidEye 3A GeoTiff/1B NITF
- GOSAT HDF5

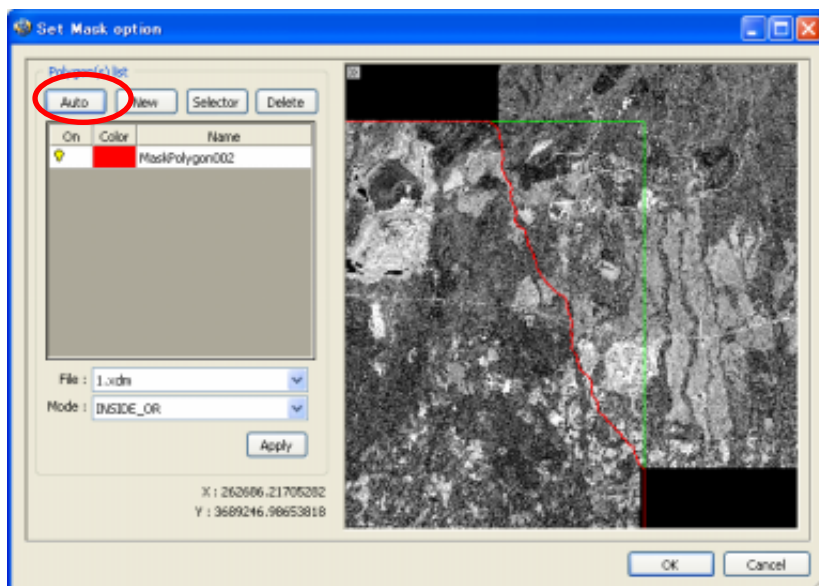
3章：機能の改良点

改良された機能：



モザイク（チュートリアル2章参照）

新たに“Autoメニュー”が加わり、画像間の接合部分に対し自動で最適なラインを描き出し、繋ぎ合わせることができます。（下記赤いライン部が自動で抽出された最適接合部）





RPC ファイルを用いたオルソ補正 (チュートリアル7章参照)

新たに、GeoEye-1、WorldView-2、RapidEye 1Bからの処理が可能になりました。



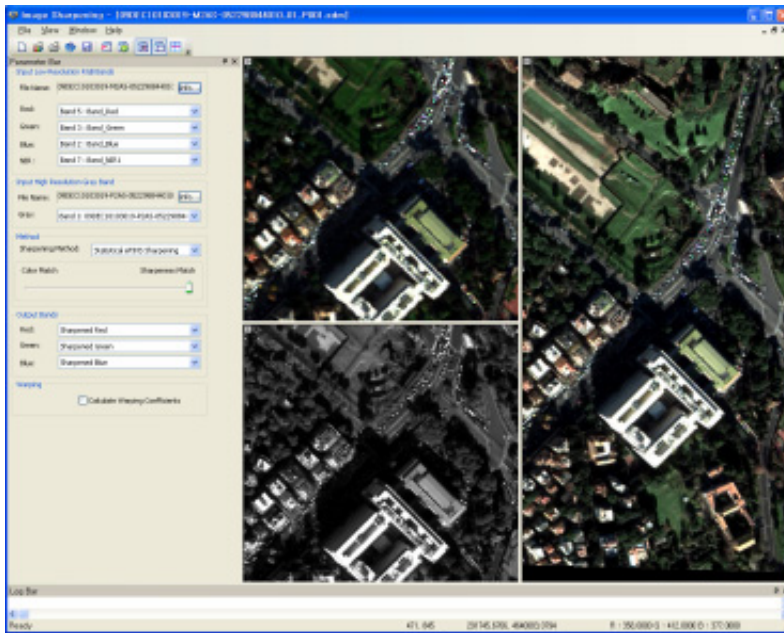
RPC ファイルを用いたステレオペア DEM 生成 (チュートリアル8章参照)

新たに、KOMPSAT-2、IKONOS、GeoEye-1、QuickBird、WorldView-1/2、OrbView-3からの処理が可能になりました。



パンシャープン (チュートリアル7章参照)

新たな処理手法として、Statistical eFIHS Sharpeningが選択可能になりました。



追加された新機能：

マルチファイルプロセッシング

効率よく複数の画像フォーマットをまとめて入出力できるようになりました。

